

令和3年7月19日

越谷保育専門学校
校長 山崎芙美夫

令和3年度第1回教育課程編成委員会報告の公表について

教育課程編成委員会による本校の「令和3年度第1回教育課程編成委員会報告」を公表します。

1 委員名簿

委員長:山崎芙美夫委員 副委員長:美入昌男委員

(1)外部委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会 評議員
石田 高幸	学校法人石田学園理事長 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園長
植竹 清文	学校法人植竹学園 理事長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
曾野麻紀	十文字学園女子大学 人間生活学部 幼児教育学科 准教授

(五十音順)

(2)学校側委員

山崎芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長兼学科長
古塩 秀明	同 事務長
会田 秀樹	同 教務部学科主任
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部学科主任
小林 恵二	同 事務部参事
佐々木舞子	同 教務部

2 教育課程編成委員会開催状況

- (1) 日時:令和3年7月1日(木)午前11時25分～12時00分
- (2) 会場:越谷保育専門学校 201教室
- (3) 参加委員:上記外部委員5名、学校側委員8名

3 委員会次第

(1)開会

(2)校長挨拶

(3)委員長選出

(4)協議

ア 教育課程編成委員会の進め方の説明

イ 令4年度教育課程編成方針

ウ 授業見学をとおしての授業内容等の工夫及び改善に向けて

(5)その他

ア 次回の開催予定

イ その他

(6)閉会

4 第1回委員会議事要録

別紙のとおり

令和3年度越谷保育専門学校 第1回教育課程編成委員会議事要録

令和3年7月19日

- 1 委員の紹介 省略
- 2 校長挨拶 省略
- 3 議長選出 山崎校長
- 4 協議事項
 - (1) 令和4年度教育課程編成
 - (2) 授業見学をとおしての授業内容等の工夫及び改善に向けて
- 5 外部委員からの提言と質問事項等
 - (1) 令和4年度教育課程の変更について(渋谷学科主任より説明があった。)
 - ・教科に関する科目を「領域」に変更する。(5領域の区分に変更)
 - ・本校は図工と音楽が多い学校であるが、その特色を活かし変更する予定。
 - ・保育現場のICT導入化に伴い、授業でも取り入れていく。
 - (2) 公開授業の感想、及び授業内容等の改善・工夫に向けて
 - (委員) 学生は各授業を真剣に学んで、良い雰囲気だと感じた。授業時に携帯電話を触っていたり、寝ているような学生は見受けられなかった。
音楽は、それぞれの教員が丁寧に教えている。学生が学ぶことへの興味を持てるよう、工夫されていた。
 - (委員) 言葉の授業では、発達障害について取り上げていた。保育現場で、発達障害への対応については、各園が様々な取り組みをしている。
子どもの発達に注目し、早い段階で専門職へ繋いで連携していくことが大切である。日本は、障害関係の専門的などころが他国より対応が遅れている。そのため、知識だけでなく、現場の実習もあればと思った。
 - (委員) 『言葉』の授業では、発達の遅れについて触れられていた。授業内容としては新鮮で、教員が板書していた点も新鮮であった。保育はアナログな部分と、ICTの両方で対応できる力が必要だと思う。
 - (委員) ICT化という点では、実習園で指導案をPCで立案する園が見受けられている。また、従来通り、手書きで提出する園と結構分かれてきている。最低限のPCスキルを学んでおくことが必要だと思う。
実習においては、エピソード記録を記入する際、写真を用いて作成する園も出てきている。学生に尋ねると、実習日誌を手書きではなく、PCで作成したいという方が多い。しかしながら、日誌は従来通り、手間暇かけて、手書きを求められることも多い。
 - (委員) 保育者の仕事を軽減するという部分で、ICTは取り入れられている。
また、保護者でPCが得意な人がいると、保護者会独自でアルバムや文集等を作成するケース等も見受けられている。
 - (委員) PCが得意な職員がいると、園ではとても助かる。画像、映像、音なり編集するなど、そういうスキルを持っている若者は増えてきている。
そのスキルを、現場でどのような場面で活かしていけるのか、考えることも必要だと感じている。

- (委員) コロナ対策をしつつ、各授業を行っていた。特に実技系の科目に留意しながら行っていると思う。保育の養成校ということもあり実技科目も多いが、高校においても行事や授業を従来の発想を変えて教育にあたっている。
- (委員) 実技系の科目は、学生もとても楽しそうに参加している様子が窺えた。講義科目は、授業の内容の組み立てが課題だと思う。パワーポイントは綺麗であるが、準備等を行う教員は大変である。
- 板書する授業は減ってきているが、体を使って「書く」ということを通し、学ぶということには意義があるようにも感じている。板書を学生が自分でまとめたり、発表したり、そういうことを授業内に組みこんでいければと思った。
- (委員) 『ピアノ』は弾き歌いをしていたが、ヘッドホンを使用していたため、音が聞こえずに残念だった。教員と上手にコミュニケーションをしており、楽しんでいる様子が見受けられた。
- (委員) 『造形』は日頃のストレス解消にもなるような体を使ったダイナミックな授業であった。保育者が楽しんでいるという姿は現場でも大切である。粘土の性質の不思議さ、友人との関わり、教員との距離も楽しんでいた。
- また、授業中に写真撮影しながら授業をすることも良いと感じた。なかなかストレスを発散する機会も無いため、こういう機会は大事だと思う。
- (委員) カリキュラムについて。
- 「命」というものを気付かせてくれるような授業を取り入れると良いと思う。植物を育てる、動物を育てる等、育て方に学生が関わっていくことが大事ではなかろうか。ICTも大事だと思うが、泥臭いことを経験することも必要だと思う。
- (委員) 実技系は、学生の参加度の温度差や雰囲気等が勤務先の大学においては意見が出ることもあるが、こちらの学校では参加意欲を感じることが出来た。現場に出た際に、保育に必要な学びだということで熱心なようにも思えた。
- (委員) 子育てしていく中で、今はありとあらゆる情報で溢れている。
- 園としては気にしなくても良いようなことであっても。保護者自身がやり過ぎてしまったり、いつまで経っても子どもを「小さい赤ちゃん」というイメージがついたままの親も見受けられている。
- そのため、家庭環境やその子ども自身が持っているものなど背景を見ていくことが大切である。気になる子どもに関しては、どこかに相談したいと+親が思えるような流れをつくるのが大切。親が（子どもの気になる様子について）認めないケースもある。